

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和3年11月号 目次

【検査結果】

横浜市内のマダニ類生息状況調査結果（令和2年度）	1
食品中の動物用医薬品検査結果（令和3年4月～9月）	4

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年10月）	6
------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年10月）	8
-----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

横浜市内のマダニ類生息状況調査結果（令和2年度）

1 はじめに

当所では、市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行っています。

マダニ類は世界で800種以上、日本には約50種が生息し、すべての種が吸血寄生性で、主に哺乳類や鳥類、爬虫類などに寄生します。ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こる感染症のことで、マダニ類による吸血は、成虫だけでなく、幼虫、若虫、成虫の各ステージで1回ずつ、生涯で3回行われます（図1）。いずれも病原体を媒介するリスクがあります。

ヒトの主なダニ媒介感染症は、急性重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome; SFTS^{*1}）、ウイルス脳炎、日本紅斑熱、ライム病などが挙げられ、特に近年ではSFTSが問題となっています。

SFTSは、日本国内では2013年（平成25年）1月に、海外渡航歴のない方が罹患し、2012年（平成24年）秋に死亡していたことが初めて報告されました。それ以降、SFTS患者が確認されるようになり、2021年（令和3年）7月28日現在で、累計患者数641名（うち死亡例80例）が報告されています^{*2}。SFTSの推定感染地は西日本に限定されていましたが、2021年（令和3年）3月に静岡県内でSFTS患者の発生が報告されました。また7月には、

千葉県において2017年（平成29年）に発生した不明熱患者症例の遡及調査の結果、SFTSウイルス感染が確認され、関東地方を推定感染地とする初のSFTS症例として報告されました^{*3}。さらに現時点では患者発生報告のない地域に生息するマダニからもSFTSウイルス遺伝子が検出されたという報告もみられています。横浜市でもマダニ類の捕獲、種の鑑別を行い、市内に生息するマダニ相を把握するとともに、ウイルス検査が行える体制を整えておく必要があります。

本稿では、令和2年度に実施した調査結果について報告します。なお、この調査の一部は衛生研究所課題持込型研修により行われました。

2 調査方法

(1) マダニ類の採集

マダニ類の採集は、旗ずり法（フラッグング法）により行いました。旗ずり法とは、白色フランネル布（30×45cm）を長さ約1メートルの棒の一端に付け、地表の植生や落ち葉の上をこすり、マダニ類を採集する方法です（写真1）。調査者一人当たり約30分間調査を行いました。

令和2年度は、①鶴見区獅子ヶ谷市民の森、②神奈川区反町公園、③中区根岸森林公園、④山下公園、⑤シンボルタワー、⑥保土ヶ谷区陣ヶ下溪谷公園、⑦金沢区富

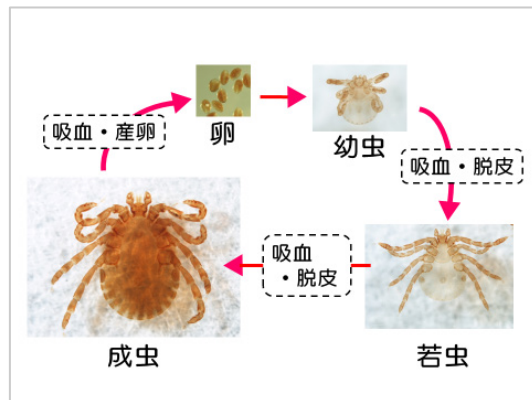


図1 マダニ類の生活史



写真1 旗ずり法（フラッグング法）

岡総合公園、⑧港北区岸根公園、⑨青葉区桜台公園、⑩栄区瀬上市民の森(以下、円海山とする)の合計10地点で調査を行いました(図2)。

調査は各調査地とも2020年(令和2年)9～12月の間に2回(陣ヶ下溪谷公園は1回)行いました。なお、シンボルタワーでは6～9月の間に、各月1回計4回行いました。

採集したマダニ類はアルコールに浸漬後、成虫についてはそのまま、幼虫及び若虫については封入標本作成後、顕微鏡下で同定しました。

(2) SFTSウイルス遺伝子検査

採集したマダニ類の成虫及び若虫の一部について、アルコールに浸漬せず、凍結殺虫し、同定、計数後にSFTSウイルス遺伝子検査*4を行いました。

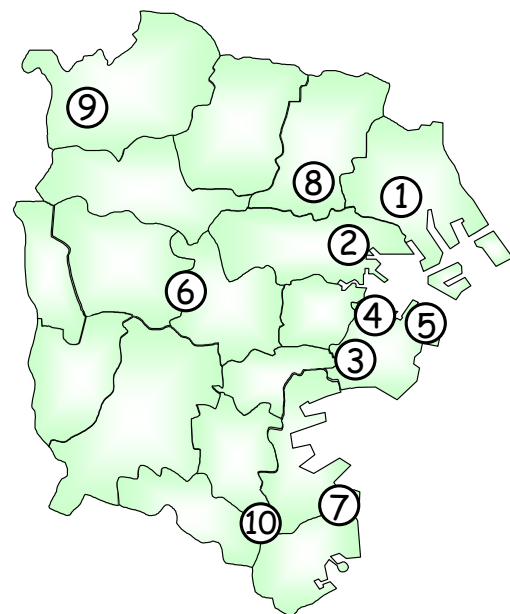


図2 マダニ類捕獲調査地点

3 結果

(1) マダニ類の採集

調査地点別のマダニ類の捕獲数を表に示しました。

表 調査地点別のマダニ類捕獲数

調査地点			調査 のべ 人数	キチマダニ	フタトゲ チマダニ	アカコッコ マダニ	合計
①	鶴見	獅子ヶ谷市民の森	8	1 (100%)	0	0	1
②	神奈川	反町公園	4	0	0	0	0
③	中	根岸森林公園	8	0	0	0	0
④	中	山下公園	6	0	0	0	0
⑤	中	シンボルタワー	8	0	0	0	0
⑥	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園	4	0	0	0	0
⑦	金沢	富岡総合公園	4	3 (100%)	0	0	3
⑧	港北	岸根公園	7	0	0	0	0
⑨	青葉	桜台公園	8	0	0	0	0
⑩	栄	瀬上市民の森(円海山)	18	431 (98.6%)	1 (0.2%)	5 (1.1%)	437
合計				435 (98.6%)	1 (0.2%)	5 (1.1%)	441

令和2年度の調査では、キチマダニ*Haemaphysalis flava*、フタトゲチマダニ*H. longicornis*及びアカコッコマダニ*Ixodes turdus*の3種441個体のマダニ類が採集されました。調査地点別では、円海山が437個体(99.1%)、次いで富岡総合公園が3個体(0.7%)、獅子ヶ谷市民の森が1個体(0.2%)でした。なお、その他の7公園ではマダニ類は採集されませんでした。

円海山では、10月と12月に調査を行い、キチマダニ、フタトゲチマダニ及びアカコッコマダニの3種が採集されました。キチマダニが98.6%を占めました。

円海山におけるキチマダニのステージ別捕獲状況について、2回の調査結果を図3に示しました。



写真2 キチマダニ成虫

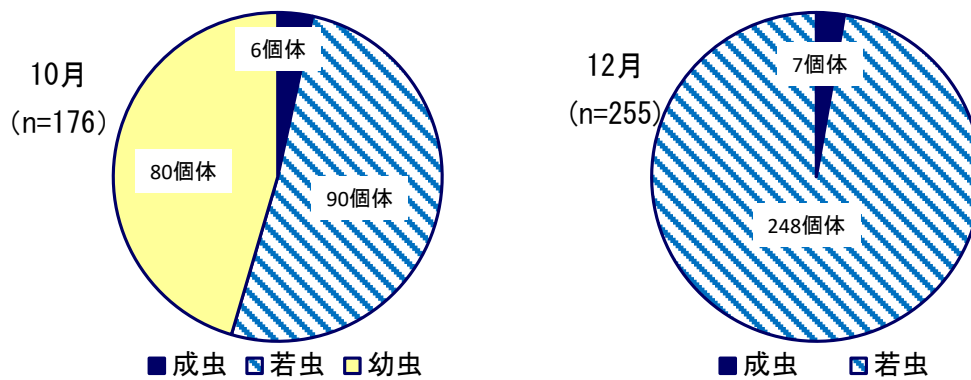


図3 円海山におけるキチマダニのステージ別捕獲状況

成虫は10月と12月に捕獲されましたが、捕獲数はそれぞれ6個体、7個体とごく少数でした。若虫はいずれの調査でも多くの個体が捕獲され、特に12月は97.3% (248個体) が若虫でした。幼虫は10月には80個体が捕獲されましたが、12月には捕獲されませんでした。過去の国内の調査において、キチマダニの成虫及び若虫は10月頃から2月頃まで多く採集され、夏期には個体数が減少する冬型の季節消長を示すことが報告されています。また成虫、若虫とは逆に、幼虫は夏から秋にかけて個体数のピークがみられ、冬期から春期にかけての捕獲数は極めて少ないことが示されています。今回の調査結果では、成虫の捕獲数は少なかったものの、若虫と幼虫の消長については、過去の報告と一致しました。

フタトゲチマダニは12月に若虫が1個体、アカコッコマダニは12月に5個体(若虫2個体、幼虫3個体)が捕獲されました。

富岡総合公園では、10月に1個体、12月に2個体、いずれもキチマダニの若虫が捕獲されました。

獅子ヶ谷市民の森では、9月にキチマダニの若虫が1個体捕獲されました。

(2) SFTSウイルス遺伝子検査

円海山と富岡総合公園で捕獲されたマダニ類の若虫及び成虫の一部について、SFTSウイルス遺伝子検査*4を行いました。

円海山については、キチマダニの成虫3個体、若虫10個体、フタトゲチマダニ(若虫1個体)及びアカコッコマダニ(若虫5個体)の検査を行いました。また富岡総合公園については、キチマダニ若虫3個体の検査を行いました。

いずれの検体からもSFTSウイルス遺伝子は検出されませんでした。

今後も市内におけるマダニ類の調査を実施し、生息状況やウイルス保有の有無について監視を継続していきます。

*1: SFTSは、2018年の国際ウイルス分類委員会(ICVT)の新規分類で、フェニユイウイルス科(Family Phenuiviridae)バンヤンウイルス属(Genus Banyangvirus)に分類されるフアイヤンシャン・バンヤンウイルス(Huaiyangshan banyangvirus)に科名、属名、ウイルス名が変更された。ただし、本稿では、広く一般に用いられている病名およびウイルス名である、SFTS及びSFTSウイルスを用いた。

*2: 遡り調査の結果判明した2005年(平成17年)からの患者4人は、感染症発生動向調査で届出が求められる以前に診断されたため含まれていない。

*3: 参考文献; 平良雅克、他。関東地方で初めて感染が確認された急性重症熱性血小板減少症候群の1例、IASR2021;42:150-152。

*4: 国立感染症研究所獣医科学部SOP「マダニからのSFTSウイルス検出マニュアル(ver3.1)」による。

食品中の動物用医薬品検査結果(令和3年4月～9月)

動物用医薬品は畜水産物の疾病の治療、予防及び発育促進の目的で使用されています。食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、健康福祉局食品専門監視班が令和3年4月、7月及び9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

4月には、牛の筋肉3検体、豚の筋肉3検体、牛の脂肪3検体及び豚の脂肪3検体の計12検体について、検査を行いました。7月には、すずき目魚介類2検体(マダイ及びブリ)、さけ目魚介類4検体(アユ、サーモン各1検体及びギンザケ2検体)、エビ2検体及びウナギ蒲焼2検体の計10検体について検査を行いました。また、9月には、牛の筋肉3検体、羊の筋肉1検体及び鶏の筋肉1検体の計5検体について、検査を行いました。

その結果、表1及び表2に示すとおり全ての検査項目で不検出でした。

表1 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果								検出限界
	畜産物の筋肉				魚介類及び魚介加工品				
	牛筋肉 (6検体)	豚筋肉 (3検体)	羊筋肉 (1検体)	鶏筋肉 (1検体)	すずき目 (2検体)	さけ目 (4検体)	エビ (2検体)	ウナギ蒲焼 (2検体)	
【合成抗菌剤】									
ニトロフラントイン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
マラカイトグリーン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
エンロフロキサシン(シプロ フロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファクロルピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファセタミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファチアゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	0.01
スルファドキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファベンズアミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

表1(続き) 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果								検出 限界
	畜産物の筋肉				魚介類及び魚介加工品				
	牛筋肉 (6検体)	豚筋肉 (3検体)	羊筋肉 (1検体)	鶏筋肉 (1検体)	すずき目 (2検体)	さけ目 (4検体)	エビ (2検体)	ウナギ蒲焼 (2検体)	
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモイルダプソン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルフイゾゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルフイゾミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナイカルバジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ミロサマイシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】									
OTC、CTC及びTCの和*	-	-	-	N.D.	-	-	-	-	0.02
オキシテトラサイクリン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	-	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
【寄生虫用剤】									
フルベンダゾール	-	-	-	N.D.	-	-	-	-	0.002
レバミゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

単位: ppm N.D.: 不検出 - : 実施せず

*: オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和

表2 畜産物の脂肪の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果		
	牛脂肪 (3検体)	豚脂肪 (3検体)	検出限界
【寄生虫用剤】			
イベルメクチン	N.D.	N.D.	0.005
エプリノメクチン	N.D.	N.D.	0.005
ドラメクチン	N.D.	N.D.	0.005
モキシデクチン	N.D.	N.D.	0.005

単位: ppm N.D.: 不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年10月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年10月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年10月の総アクセス数は、210,435件でした。前月に比べ2.2%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*78.7%、保健情報12.4%、検査情報月報2.5%、生活環境衛生1.9%、食品衛生1.7%、薬事1.6%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

表1 令和3年10月 アクセス順位

10月のアクセス順位（表1）

を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「EBウイルスと伝染性単核症について」、2位は、「トキソプラズマ症について」、3位は、「ぎょう虫（蟯虫）症について」でした。8位には、「粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？」が入っています。

順位	タイトル	件数
1	EBウイルスと伝染性単核症について	11,273
2	トキソプラズマ症について	11,067
3	ぎょう虫（蟯虫）症について	10,406
4	手足口病について	7,801
5	水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について	7,758
6	B群レンサ球菌（GBS）感染症について	7,626
7	サイトメガロウイルス感染症について	4,942
8	粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？	4,581
9	横浜市感染症情報センタートップページ	4,433
10	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,211

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「ぎょう虫（蟯虫）症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年10月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 令和3年10月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
猫ノミと発熱について	1
害虫について	1
うつ病について	1

2 追加・更新記事

令和3年10月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表3)。

表3 令和3年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月 5日	熱中症情報(2021年10月4日)	掲載
10月 6日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第10回)	更新
	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
10月13日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
10月18日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第11回)	更新
10月29日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第12回)	更新

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和3年10月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は、第35週以降減少し続けています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	10件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	12件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症：O157が6件、O不明4件(うち2件が無症状病原体保有者)報告がありました。
- 2 レジオネラ症：肺炎型4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢：腸管アメーバ症1件の報告がありました。同性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：B群の報告が1件ありました。創傷感染が推定されています。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：無症状病原体保有者2件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症：70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症：10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴3回有)ありました。
- 9 梅毒：早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。男性10件、女性2件で、うち11件は性的接触(異性間7件、同性間2件、詳細不明2件)による感染が推定されています。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第40週～第42週に横浜市から報道発表のありました症例は423件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

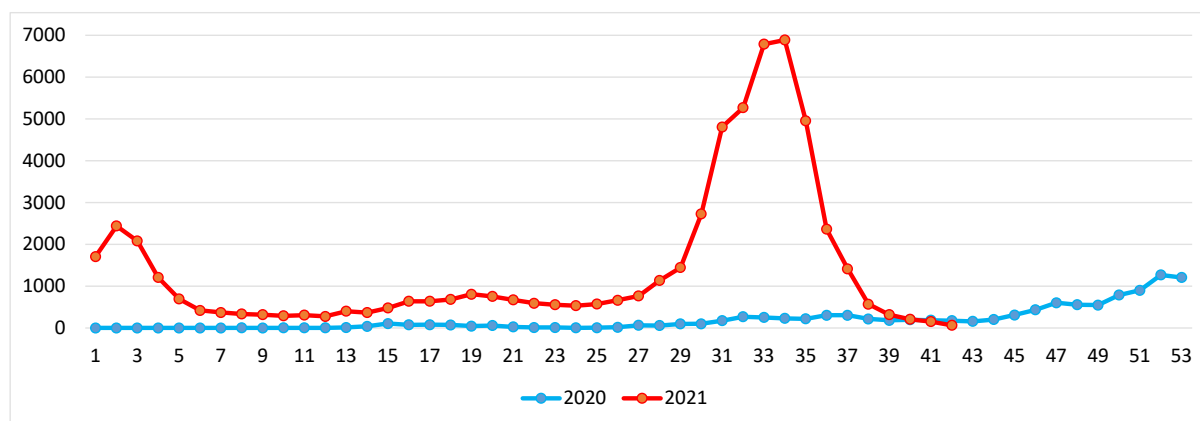
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

◆ 変異株の検出状況：神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(10月26日版)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r0286904.html>

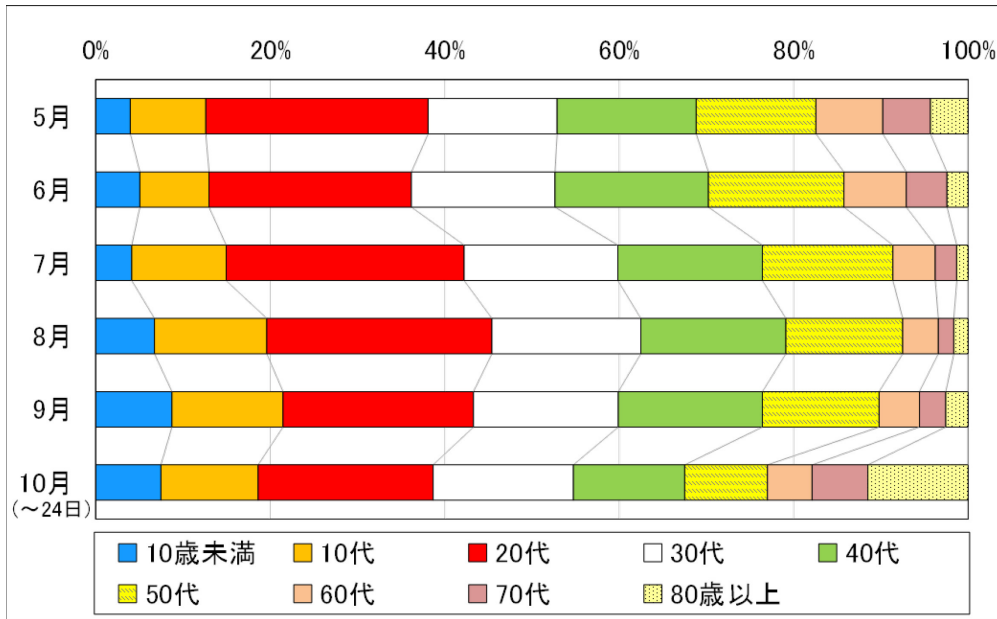
1 報告数の推移

[人]

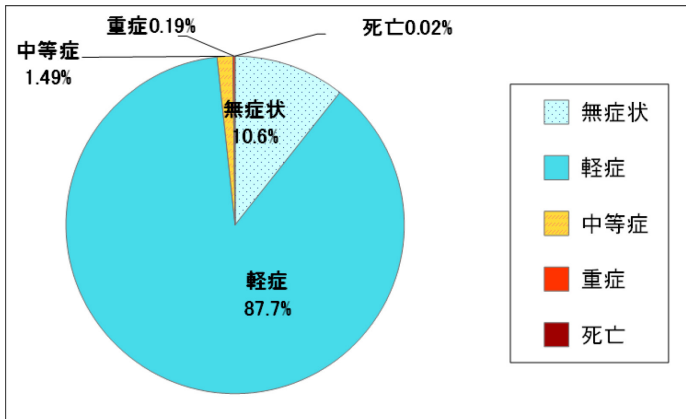


[週]

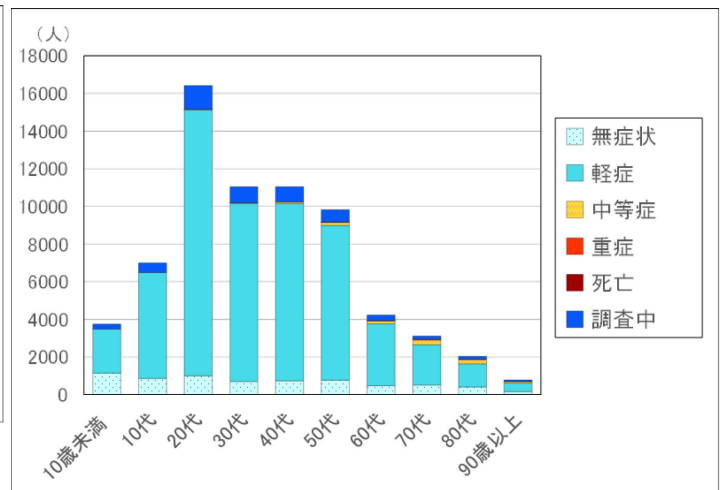
2 年齢別割合



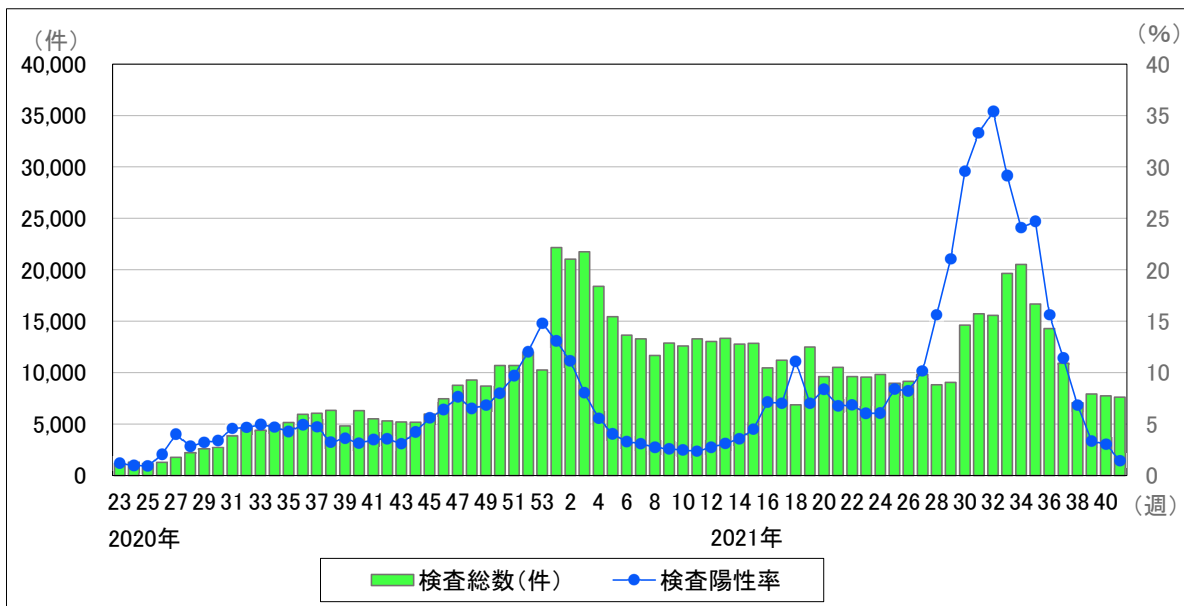
3 陽性確定時の症状の割合



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (第41週まで)

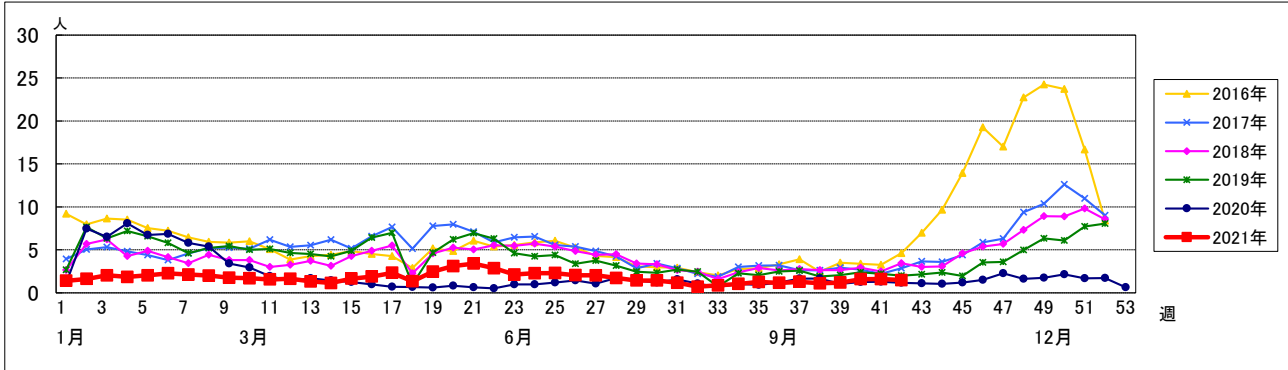


※ 検査総数:医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

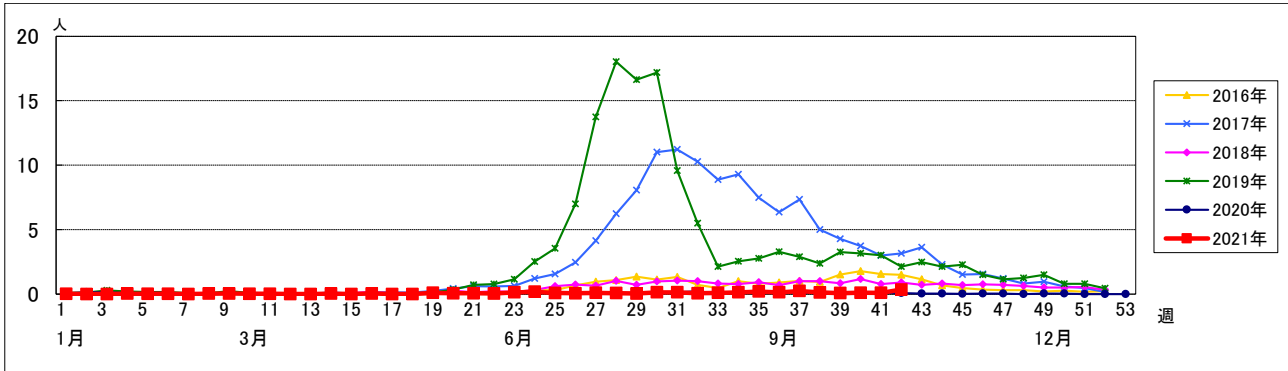
報告週対応表	
第40週	10月 4日～10月10日
第41週	10月11日～10月17日
第42週	10月18日～10月24日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第42週は1.46でした。



2 手足口病: 例年より低めの報告数で推移していますが、第41週 0.09、第42週 0.34 でした。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:25件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 5件	女性: 3件	淋菌感染症	男性:17件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.66	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月期(2021年第39週～第42週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点2件、基幹定点1件、定点外医療機関からは1件でした。

11月5日現在、表に示したパラインフルエンザウイルス1型1件、2型2件、4型1件、アデノウイルス2型1件、コクサッキーウイルス A6型1件、ライノウイルス1件の遺伝子が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第39週～第42週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
パラインフルエンザウイルス 1型		- 1
パラインフルエンザウイルス 2型		- 2
パラインフルエンザウイルス 4型	- 1	
アデノウイルス 2型	- 1	
コクサッキーウイルス A6型	- 1	
ライノウイルス	- 1	
合 計	- 4	- 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

10月期(2021年第39週～第42週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、サルモネラ属菌1件、レジオネラ属菌1件、ウエルシュ菌1件の検査依頼がありました。非定点からの検査依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、黄色ブドウ球菌2件、アクチノマイセス属菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌9件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ2件の検査依頼がありました。「小児サーベイランス」の小児科定点からの検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第39週～第42週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Enteritidis (1)	
	レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)	
	ウエルシュ菌	1	<i>Clostridium perfringens</i> (1)	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Esherichia coli</i> (2)	
	黄色ブドウ球菌	2	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	
	アクチノマイセス属菌	1	<i>Actinomyces neuii</i> (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus gallinarum</i> (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	9	O157 : H7 VT1 VT2 (4)、O157 : H7 VT2 (1)、O157 : H- VT1 VT2 (1)、O26 : H11 VT1 (1)、OUT : H+ VT1 (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Esherichia coli</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌 (1) B群溶血性レンサ球菌 Ib型 (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24型 (1)	
	分離同定	材料	項目	検体数
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】